

道徳学習指導案

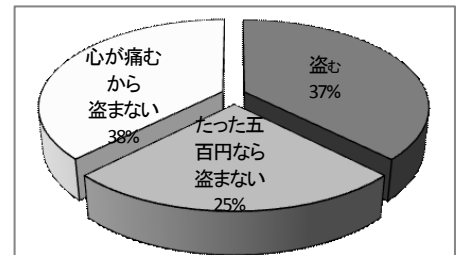
日時 平成23年11月11日(金) 2校時
会場 2年2組教室(北校舎2階)
生徒 2年2組 (男子16名、女子17名 計33名)
授業者 中軽米 央子

- 1 主題名 誇りある生き方 3-(3)人間の弱さの克服 (3-(2)畏敬の念)
資料名 「ドラえもん“悪魔のパスポート”」(アニメーション)

2 主題について

(1) 学習者観(価値に関わる生徒の実態)

- ・明るく前向きに物事に取り組む集団であり、何事に対しても素直に見つめる目を持つ生徒たちであるが、感情表現が非常に不器用で、思いが伝わらずに葛藤する姿も少なくない。
- ・『誰にも見られていなかったら500円くらいの物なら盗んでしまうか』という質問をしたところ、「心が痛むから盗まない」という、心の声に従って積極的に正しい行動を選択する生徒も多いが、「敢えて面倒なことはしたくない」という考えも多く、一見きちんときまりを守る集団に見えるが、浅い規範意識の中で生活していることがわかる。



(2) 学習材観(資料について)

- ・この資料で主人公が誇りある生き方に気づき変容していく過程は、他者との関わりというよりも自分自身の心の中の「神と悪魔」の葛藤であるので、生徒の思考がぶれずにねらいにせまることができると考えた。
- ・「正体のない何かに怯えてドキドキする」「見えない視線を感じて畏れる」という、言葉に表せないモヤモヤした微妙な心理状況を、画面の主人公の表情や声の変化、心情を表すBGMなどからストレートに感じとることができる資料である。映像から感じとった心情を言葉に置き換えて表現させることで、生徒一人ひとりが潜在的に持っている「畏れる心情」すなわち「良心」を、揺さぶりおこしたい。
- ・映像を資料化する場合、瞬間的に視覚・聴覚両方に大量の情報が飛び込んでくるので、視聴する生徒は思考する間もなく固定されたイメージを受け取ってしまうという短所がある。しかし、本学級の生徒の実態を考慮して、ストレートに主人公に感情移入させて、素直にその心境に共感させることができるという点では、非常に力強い資料と考えた。
- ・自分自身の弱さに気づき向き合ったときから「良心」との戦いが始まり、弱さに打ち勝つことは、自分に恥じない誇り高い生き様であることを、資料の主人公の姿から感じ取らせたい。

(3) 学習指導観(価値について)

- ・畏敬の念……いわゆる人間を越えた力に身が竦み心の底が震える「畏れ」という感情は、「圧倒的な自然や美に畏れ魂が打ち震える感情」と「見えない何かの視線に戦慄を感じ畏れる感情」の二種類あると考える。(本実践の「畏れ」は、後者の捉えである。)この授業を通して、より気高く誇りある行動の判断基準は、社会的な賞賛や制裁より、自分自身に恥じないかどうかであることに気づかせたい。
- ・自分の行動をいつもどこかで見られているような視線に対する畏れは、自分自身の内なる「良心」と言える。だれの心の中にも「プライドを持ち誇り高く生きようとする心」や「良心」が存在することに気づかせ、これから自分の弱さを乗り越えて成長していける希望や喜びにつなげたい。

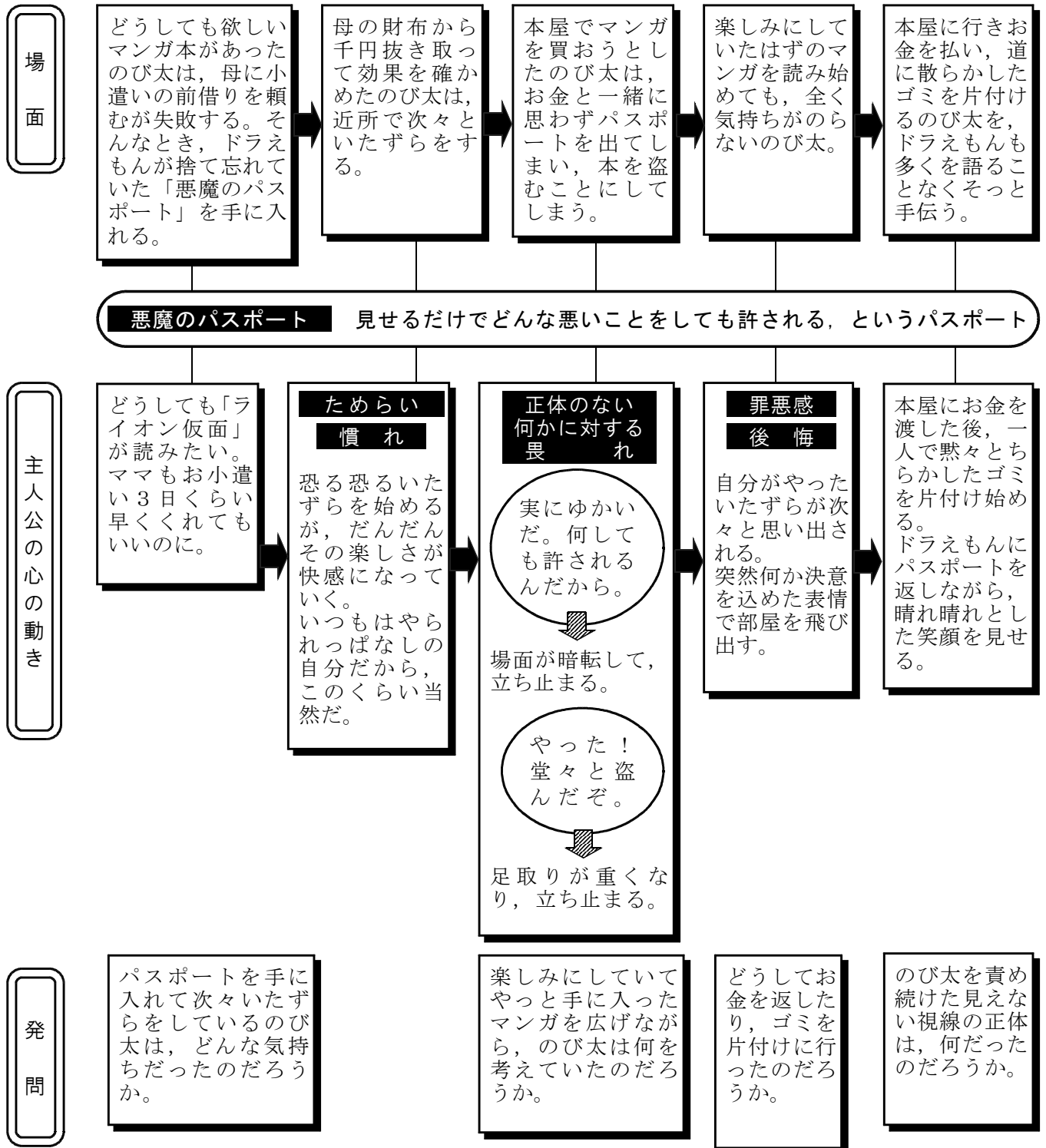
(4) 研究とのかかわり

- ・資料の読み取り部分となる主人公のおかれた状況や弱さの確認は、グループで協同的に行い、なるべく全員が足並みを揃えられるようにする。主人公の心情を問う発問や主発問は隊形を個にもどし、一人ひとりの自己との対話の時間を尊重する。
- ・終末段階で、あえて主人公とはなれた視点に立たせた発問をジャンプの課題として設定し、主人公の心の中に迫ることに挑戦する。

3 道徳の時間の評価 (ア, イ: 授業者自身 ウ, エ: 生徒)

- ア 資料の選定は適切であったか。
- イ 生徒が互いの考えを聞き合い, 思いや感じ方を深められるような発問構成と展開がなされたか。
- ウ 主人公の心情を, 自分の言葉で表現しようとしていたか。
- エ 互いの言葉を聞き合い, 最後には自分のこととして考えることができたか。

4 資料分析図



5 本時の指導

(1) 目標

悪いことをするのは、だれより自分で自分を許せない行為であり、自分の弱さと戦う良心の声にしたがうのは、誇り高い生き方であることに気づかせる。

(2) 展開

学習活動	学習内容 ○主な発問 ・予想される生徒の反応	指導のための工夫	評価の 視点・方法
1 自分自身の心と対峙する	<ul style="list-style-type: none"> ○「どんなことをしても許されるパスポート」を手にした自分を想像してみよう。 ・おもしろそうだから色々なことやっちゃおう。 ・ほんとにいいのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・30秒間目を閉じて考えさせてから、それを手にした時、あるいは使っている時の「気持ち」だけを聞く。(具体的な使用方法は聞かない。) 	
2 共有の課題を把握する	共有の課題 のび太を責め続ける「見えない視線」の正体は何だろうか。		
3 資料を視聴する	<ul style="list-style-type: none"> ○パスポートを手に入れて次々いたずらをしているのび太は、どんな気持ちだったのだろうか。 ・何でもやってやる。 ・いつもやられているんだから当然だ。 ・やりすぎかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視点を提示して視聴させる。 ・導入での自分の気持ちと重ねて考える。 	
4 主人公の気持ちを考える	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しみにしてやっとなんか手に入ったマンガを広げながら、のび太は何を考えていたのだろうか。 ・もやもやする。 ・ずっと何かに責め続けられている。 ・迷惑をかけた相手に申し訳ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉に表せないような気持ちをあえて表現させることで苦しみを共感させる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○どうしてお金を返したりゴミを片付けに行ったのだろうか。 ・迷惑をかけた人のため ・自分で自分が許せないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ●だれのための行動か。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ドラえもんはパスポートを返したのび太は、どんな気持ちだったのだろうか。 ・すっきりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・のび太の晴れ晴れとした喜びの表情に注目させながら、役割演技してみる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○のび太を責め続けた「見えない視線」の正体は何だったのだろうか。 ・本当の自分 ・心の中の神 ・良心 	<ul style="list-style-type: none"> ・各々が感じる「視線」をそれぞれの言葉で表現させ、聞き合わせさせる 	
5 ジャンプの課題を把握する	ジャンプの課題 どうして、ドラえもんは何も言わずにのび太を見守っていたのだろうか。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・のび太の中に必ずあるはずの「良心」を信じていた。 		
6 導入時と同じ視点で自分自身の心と対峙する	<ul style="list-style-type: none"> ○「だれも見えていないところで悪いことをしようとしている自分」を想像してみよう。 ・だれも見えていなくても自分に恥ずかしいことからやめておこう。 ・弱い自分に負けたくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時と同様にサイレントタイム(30秒間)の後、発表はさせずにプリント記入させる。 	